

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL.109 (年4回発行)

- 発行日 令和5年9月30日
- 発行 三春まちづくり協会
- 編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100-1(旧若駒寮)
TEL/FAX(62)3988

親子のダブル・イベント開催 「三春花の丘公園」

圓谷 彰孝

初夏の一日、街の中央に位置する「三春花の丘公園」で、親子のダブル・イベントが行われた。

三回目を迎えた、小学校の新一年生によるハナモモ苗木の植樹祭である。親子で共同作業をするのが特徴だ。さらに、すでに植樹を経験した二、三年生を招き、花木の手入れと、「発見」をテーマとする散策路ウォークを企画。「山賊ウォーク・in・花の丘公園」の幕



集合場所から、公園の頂上付近を目指す新一年生。木札に書き入れた絵や文字が、いきいきしていた

開けである。

三春小、御木沢小の児童と保護者、合わせて百六十人が参加した。

◇

同公園は、NPO法人「三春楽しい地域づくりの会」(内藤忠・理事長)が主催する事業。令和元年に着工し、同四年に開園した。

七百本の植栽を整備、ハナモモをはじめ、アジサイ、ヤマザクラ、ユキヤナギ、スイセンなど、季節の花木が、スタツフ

をはじめ、協力者によって管理されている。

今春は、二百人の入場者が訪れ、桜の季節を満喫した。

◇

佐久間正真くん(三年生)は、弟の正裕くん(一年生)に寄り添い、苗木を植えた。二年前、雨天のため、自分ではできなかった夢を果たしたのだ。雑草を取り払うしぐさも、あたたかく力強かった。

二人の作業を見守っていた、母親の久美子さんは、「スタツフの皆さんによって植樹された、正真の木札のついたハナモモを確認することができました。苗木に水をかけることもでき、うれしい一日です」と笑顔を見せた。

「花桃が元気できれいに咲きますように」とていねいに書き、木札を添えたのは、石井ナツミさん(一年生)。姉のアヤ

「山賊ウォーク」でシールを張り付けた台紙。満点になると、記念のメダルが贈られる

★山の中は発見がもりだくさん★		おやくそく、必ず守りましょう	
山賊ウォーク in 花の丘公園		●おらずに歩いて数歩しよう	
下のミッションをクリアして得点をアップ!!		●おらずに協力し合って山の中を探検しよう	
頂上で記念撮影	ベンチで水分補給	神社でお参り	看板または石碑をみつける
10点	10点	または なで牛をみる	5点 5点
苗木の植樹 または お手入れ (車わしりや肥料)	お花をみつける	虫をみつける	(自由) 新しい発見をみつける
20点	10点	5点 5点	2点 2点 2点 2点

力さん(三年生)と、ハナモモの成長を祈った。

「大きくなってね」と書いた木札をつけ、手を合わせたのは、國分梨帆さん(一年生)だ。苗木に肥料を施し、土をかけるながら、花芽をつける日を楽しみにしていた。

「山賊ウォーク」は、与えられたミッションをクリアして、得点を重ねるゲーム。虫を見つけて、神社でお参りをする、苗木の手入れをするなど、九つの活動に分類され、満点になると、三ツ星の焼き印がついたメダル(木製)が贈られる。高低差のある公園を活

発に動き回り、頂上に達した二年生の渡辺花野さんは、見晴らしのよい場所ので記念撮影。十点を確保した。

「あっ、虫を見つけた」と小さく叫んだのは、市川真優さん(一年生)。

得意そうに、シールをカードに張り付けた。企画をした、スタツフの橋本佳知さんは、「ワクワク、ハラハラしながら、自然に親しんでいた



どんなふうに入れたら、きれいに咲くのかな。相談しながら植樹する子どもたち。家族の楽しい時間だ

を味わえるのも魅力の一つです」と語った。
この日、全員が、記念のメダルを獲得した。

◇ NPO法人・副理事長の井上広志さんは、「子どもたちのパワーに圧倒されました。ご家族にも喜んでいただき、公園が皆さんに親しまれて、公園がことを実感しています。街中で、自然を体感できるのがいいですね」と述べ、ダブル・イベントを結んだ。



スタッフからハナモモの苗木を受け取り、眺めのよいところに向かう

コミュニティ福島を視察して

環境部会部長 橋本 三郎

環境部会では7月12日にコミュニティ福島福島の視察研修を行い、東日本大震災原子力発電所事故などについて再度学びました。また、その後の福島県の変化なども学びました。

先ず初めに、『マップピングふくしま』で原子力災害による自然環境への影響について直感的に理解できることを体験し、放射性物質がどのように拡散し、その後、どのように変化したか説明を頂きました。

『未来創造インフォストリウム』というタッチパネル式の柱が4本立ち、気になる項目に触れると、その内容の説明があり、更に、それに触れると深く知れるという仕組みで、今回は、時間の都合もあり、深く体験できませんでしたが、再訪問の際には、もっと体験したいと思います。

『エネルギークリエーター』という展示は、不思議な砂場でエネルギーを作り出す体験ができ、子供達には大人気だとのことでした。

『ふくしまいきものサーチ』というコーナーでは、虫眼鏡でスクリーンに映ったものを捉えると、説明が浮かび上がり、時間があれば、全ての動植物を観察したいと感じました。

『環境創造シアター』では2本上映されましたが、全球型シアターの迫力画面と音響に驚きました。この感覚は体験しなければわからないと思います。

最後に、風力発電について実験装置を使用して体験しました。

風力発電機の羽は3枚のものを多く見かけますが、実験では6枚の方が発電効率の良いたことが分



かりました。しかし、6枚にすると設備の構造上厳しくなり3枚になっているようです。参加者からは色々意見や質問が出て有意義な時間でした。

詐欺被害防止講演会

生涯学習部会長 平山 聡

7月18日(火)三春交流館まほら小ホールにおいて、田村警察署刑事生活安全課生活安全第一係長を講師に迎え、詐欺被害防止講演会を開催いたしました。

特殊詐欺にはどのような手口があるのか資料を使い説明して頂き、詐欺被害に遭わないようにするにはどうしたら良いのか、講演して頂きました。

オレオレ詐欺、預貯金詐欺、架空請求詐欺、融

資保証金詐欺、還付金詐欺、未公開株式取引等の金融商品詐欺、老人ホームの入所権などもこれに当たるそうです。

不特定多数に「パチンコ打ち子募集」等と掲載したメールを送り会員登録料などの名目でだまし取るギャンブル詐欺や、「女性紹介」などとメールを送り会員登録料や保証金などの名目で金銭をだまし取る交際あつせん詐欺。あなたのキャッシュカードが不正に利用されていると言つて、キャッシュカードを盗む詐欺。この詐欺は、田村署管内でも発生しているとのことでした。

パソコンを利用中画面に「ウイルスに感染しました」などと表示させ、電話をするとウイルス駆除の名目で電子マネー等を要求するサポート詐欺。アダルトサイトを見ていて表示されたという話もあるそうです。

以前から言われてきた悪質商法も増えているそうです。点検商法、SF商法(睡眠商法)、訪問購入(買取り)マルチ商

法、送りつけ商法等々。送りつけ商法(注文していないのに商品が一方的に送られて代金を支払うよう仕向ける)に対しては、受け取っても代金を支払う必要はない。支払ってくれと言われたら着払いで送る。クーリングオフ制度があるので警察に相談するなどの対応が必要とのことです。

被害に遭わないためには、「必要ないものは、いらぬといはつきり断る。」「身に覚えのないメールは無視する。」など、日頃十分注意しましょう。

被害に遭ったら、「一人で判断しない。」「警察に相談する。」です。自分は絶対引つかからない、大丈夫と思っている人ほど、引つかかりやすいそうです。



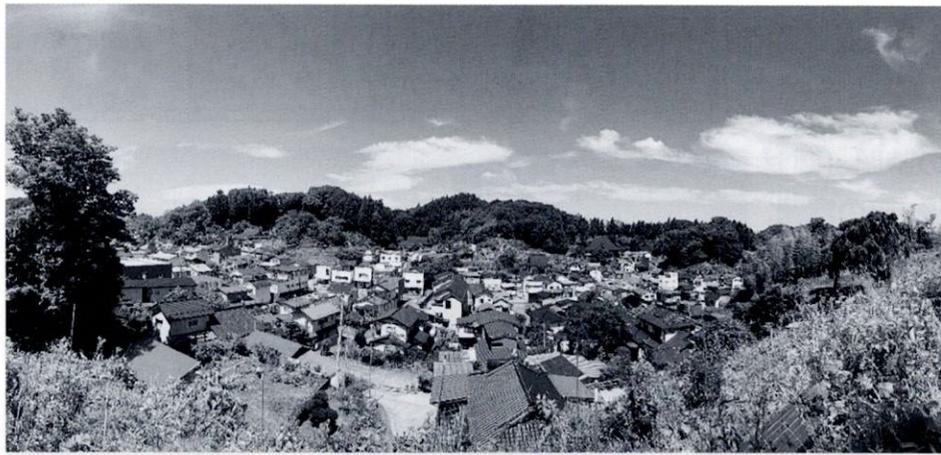
詐欺被害防止講演会の様子

紫雲寺散策路の 踏査報告

地域部会長
渡辺 健一

6月17日、紫雲寺散策路（花の丘公園ルート）を実施した。

特に危険な箇所はなかったが、北野神社からの道はかなり草が茂って



散策路から眺められる町内の一部



旧三春中の校庭から散策路をながめる様子



整備された案内板は分かりやすい

いた。また、少し気になったのが中腹曲がり角に設置された案内標識が紛らわしかった。

前日までの雨も上がり素晴らしい天候となった。頂上付近にベンチがあるが、所々に休み石でもあれば、散策を楽しむと同時にゆっくり景観を眺められるような気がする。

はるか遠方には安達太良が見え、眼下には花の丘そして街並み、最高の眺望となりそうだ。

王子神社へと下るところ、寺社の大屋根が4つ5つと一目で見られて、城下町三春のもう一つの側面、寺の町であることがよくわかるいいスポットだと思った。

保健師を目指す 学生さんが訪問

事務局
佐久間 寛

7月20日午後、郡山市のポラリス保健看護学院の保健師を目指す学生さん3名が事務所に訪れて三春町のことについてインタビューを受けました。

当日は、午前中に御木沢まちづくり協会で話を聞き、コミュニティ福島で来たことと、昨日は沢石まちづくり協会を訪ねたことと話をしました。

まず、三春町全体の特徴について話になり、先の敬老会実行委員会で77歳以上の方が2500名以上おり、高齢化率が高いと感じていること。

また、昭和の合併前の地域の特色が引き継がれていることや、旧町内では歴史を大切にしている傾向を感じることを話しました。

旧町内では字ごとに祭があるが、情報共有の場があるかどうか質問されましたが、昔から続くことなので、そのような場

は無くとも互いに分かるような仕組みになっていると説明すると、納得した様子でした。

御木沢や沢石では高齢者が元気に畑仕事をしていると聞いたが、三春まちづくり協会独自に高齢者を元気にするための行事を行っているかどうかとの質問では、高齢者のためだけの特別な行事が無いことを話しました。

協会では、詐欺防止講演会のような話題性や興味を引きそうなテーマの講演会などを開催しても参加者が少なく、参加者の拡大の工夫が課題であること。また、町の歴史に関する講演会は毎年開催していることなどを説

明しました。また、三春わが街に田村高校生の記事を掲載していることについて、高校生もやりがいを感じるのではないかとの感想をいただきました。

訪問された3名のうち、1人は保健師、2人は看護師を目指しており、来年2月の国家試験に向けて、現場を見学したり勉強したり大変な様子です。目標に向かって無理せず頑張っていたかと思えます。



熱心にインタビューをする
ポラリス保健看護学院の学生の皆さん

最後に、町内を少し歩き回るとのことなので、石柱拓本ラリーの資料を渡し、三春の歴史に触れるよう説明してお別れしました。

田村高校生の「総合的な探究の時間(夢ゼミ)」の紹介 第2回

田村高校では、総合的な探究の時間(夢ゼミ)において、三春町の歴史、風景、町の課題、イベントなどを高校生の目線で探究し校内発表を行っています。そこで、三春まちづくり協会では、ご担当される先生方の協力を得ながら発表内容の一部を紹介いたします。

〈第2回〉



油揚げほうろく焼® (写真/割烹 八文字屋様ご提供)

三春の美味しいもの紹介

私たちは三春町の魅力を広めるために三春町のおいしい食べ物について調べました。その中の一つである「ほうろく焼き」についてみなさんに紹介したいと思います。

まず初めに「ほうろく焼き」とは三角油揚げにネギを詰めて焼き、味噌を塗って食べます。

塗る味噌は季節によって味を変えるそうです。春はふきのとう味噌、夏は山椒味噌、秋と冬は柚子味噌です。

実は、ほうろく焼きは三春町にある「割烹八文字屋」さんが、戦後の町おこしのひとつに名物料理として古い郷土史の逸話から考案されたものです。三春藩主秋田氏三代輝季公が、今の滝桜の地にお鷹狩りに向かい、立ち寄った庄屋の女房お梅が油揚げをほうろく鍋(当時は瀬戸の平たい鍋)で焼き、さし上げたというお話です。また、戦後のほうろく鍋は、ブリキ製のフライパンの様な形をしており、それをお皿として油揚げをのせて出したのが「ほうろく焼き」のはじまりです。

三春町は城下町だったということもあり、お寺が多く精進料理の豆腐料理が発達していました。三角型の油揚げは、鶴が三春城の上空を高く飛んでいる姿をイメージしているとも言われています。

実際に食べてみると外はカリッと中はフワツとした食感で、上の味噌と中のネギが相性がよく、とてもおいしかったです。

三春町民はもちろんのこと国内外の方々にも三春町を訪れてもらい、三春の文化、歴史を感じながら「ほうろく焼き」を食べてもらいたいと思います。

田村高校 糺田 奈那 長谷川愛果 橋本 晏

コミュニティだより
三春わが街 第一〇九号
発行日 令和五年九月三十日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町大字真山字裏二〇〇一
(六一)三九八八

「三春わが街」デジタル版
はこちらから!



三春町のホームページの地区まちづくり協会のなごるQRコードです。

▼今月号も「三春わが街」をお読みいただきありがとうございます。今年度から広報部会の一員になりました。学びとの出会い、人との繋がりを大切に、楽しみにしていただける広報を皆様にお届けできるよう務めていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

▼今年も、春に蕾をつけ秋に実を結ぶ「収穫の秋」となりました。私は食養生として「身土不二」という事を大切にしています。

▼人と土(環境)は一体で、命と健康は食べ物で支えられて、食べ物は土(環境)が育てている。という考え方で、慣れ親しんだ土地で採れた旬の物をいただくことが、その土地で生活している私達の体にあつた食事ということになります。▼「地産地消」という考え方も通じます。私達は自然に習って生きているので、自然の流れに沿った食べ方をすることで健康に繋がっていくのだと思います。▼自然の恵みに感謝しつつ、秋の旬を楽しみましょう。

(伴野 由紀子)

編集後記